日立市のコミュニティ情報紙

こみこみ

No.32

発行日／2013.8.20
発　行／日立市コミュニティ推進協議会
編　集／コミュニティ情報紙編集委員会
日立市役所市民活動課内　☎0294-22-3111
〒317-8601　日立市助川町1-1-1

平成２５年度　コミュニティ推進協議会の基本方針

高齢社会における課題解決と住民のニーズに対応する取り組み

地域福祉、防犯、防災、生活環境など市民に関係の深い分野のまちづくりでは、コミュニティの果たす役割が増大してきました。２３のコミュニティ組織では特色ある活動を進めると同時に、地域課題の解決が必要になっています。コミュニティ推進協議会では、さらに市の関係課との協働の体制づくりを進めます。

地域力の強化と

災害時の初動体制整備

市民と行政の協働によるまちづくりの核として、役割を果たしてきた日立市コミュニティ推進協議会は、発足してから間もなく４０年を迎えようとしています。今年度は「行政とコミュニティ活動のあり方検討委員会」の提言を受けて、改革に着手して２年目になります。また、東日本大震災から２年が経過しました。

これまでも多様化する住民ニーズに対応するため、コミュニティ推進協議会では市の関係課、関係機関と連携・協働を図りながら事業を進めてきたところですが、さらに行政との協働により地域の課題に対応できる体制づくりに取り組んでいきます。

また、安心・安全のための自主防災・防犯活動、災害時の要援護者支援、地域福祉活動などは、行政の力だけでは対応が難しく、まさに地域力の強化が重要になってきました。そのためには市の関係課や日立市社会福祉協議会等をはじめとする、関係機関と連携・協力し、安心・安全なまちづくりを進める必要があります。特に災害時の避難所における初動体制の整備は、コミュニティとしての大きな役割の一つであると考えています。

また、地球環境・生活環境を守る活動では、高齢社会の進行に伴い、再生資源等の回収システムのあり方などが課題として取り上げられるようになり、市の関係課と共同で設置した「再生資源等の回収システム研究会」での検討内容をもとに、具体的な方法を提案していきます。

23学区会長会議

「交流センター」が、地域福祉を含めたコミュニティ活動の拠点として、その機能を十分に発揮し、住民の理解と協力を得ながら、更なる地域の活性化が図れるようコミュニティ推進協議会としても検討を進めていきます。

■コミュニティ推進協議会会長：志賀勝弘、副会長：大江日出雄・永井久善

「こみこみ」バックナンバーが見られます

本誌「こみこみ」は、平成１１年１０月に創刊し、今号が３２号になります。これまで発行してきた「こみこみ」バックナンバーを、日立市コミュニティ推進協議会のホームページに掲載しました。
(http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/statics/shikatsu/index.html)

あなたもコミュニティのメンバー

交流センターを拠点に多彩な活動

皆さんがお住まいの学区（地区）コミュニティ組織では交流センターを拠点に、それぞれ地域の特色を生かした活動を進めています。

地域福祉や子育て支援、防災や防犯など、人のつながりを大切にした事業や再生資源回収など日々の生活に関係の深い事業も実施しています。

一緒にまちづくりをしましょう！

地区・学区	会　長	交流センターTEL
十　王	深津　正孝	３９－２４１１
豊　浦	立川　伸平	４３－５７５５
日　高	志賀　勝弘	４２－４０５０
田　尻	大森　健一	４２－１５５２
滑　川	遠藤　　進	２２－１６５４
宮　田	田尻　　久	２７－６８３５
中　里	石川　諒一	７０－８００５
仲　町	福地　稔昌	２１－５５６４
中小路	矢部　敏晴	２２－６４８３
助　川	永井　久善	２３－０９５５
会　瀬	柴田　和彦	２５－１５７７
成　沢	藤井　正孝	３５－５５８７
油縄子	益子　功喜	３８－７５３１
諏　訪	持田　幸雄	３３－３８４１
大久保	作山　英一	３４－０５３５
河原子	小又　義康	３３－３７４６
塙　山	西村ミチ江	３４－５４０４
大　沼	大江日出雄	３５－８３２９
金　沢	泉　　聡二	３６－３９８５
水　木	高橋　幸隆	５２－３２２５
大みか	村山　達男	５３－５２１１
久　慈	須田　　昭	５２－０１６５
坂　下	井上　充宏	５２－３１５５

再生資源等回収システムの実証実験　市民の負担軽減と利便性の向上のために

現在の再生資源回収システムは昭和５９年から始まり、地域住民がステーションごとに当番制で分別指導をする完全分別方式で、市民一人ひとりの協力があって成り立っています。しかし、近年の高齢化の進行や町内会などへの加入率が低下していることなどから、立ち当番に関わる負担が増え、担い手不足などが一部の集積所で問題になりつつあります。

そこで、日立市ではこれまでの地域のつながりを重視しながらも、現在の再生資源回収システムを、地域住民の負担軽減や利便性の向上に配慮したシステムができないかなど、「再生資源等回収システム研究会」を開催、今後のあり方について検討を進めるため、コミュニティ単会や町内会などの協力を得て実証実験を行うことになりました。

負担になりはじめた立ち当番

すでに、各コミュニティ単会に実証実験の参加募集をしたところ、下表のような応募がありました。実証実験は今年の９月ごろからスタートし、年内には完了予定です。実証実験の結果を検証し、参加コミュニティ単会とも協議しながら実効性のある方向を検討していきます。

◇ 実証実験概要と希望コミュニティ単会数 ◇

NO	実験形態	実験概要	確認事項	対象者	実施時期(予定)	実験希望単会数
1	立ち当番者を置かない	当番者は用具の配置と回収のみ行う	適正排出度と分別精度の確認	通常の立ち当番を実施している集積所を対象	10～12月	13
2	地域拠点回収	設定期間の指定時間内に排出できる拠点を設ける	通常の集積所以外に排出できる拠点場所、利用状況、回収量の確認	通常の集積所・時間内に排出できない方を対象	９～11月	3
3	休日拠点回収	設定した休日の指定時間内に排出拠点を設ける	休日に排出できる拠点場所、利用状況、回収量の確認			3
4	戸別回収	コミュニティ単会が戸別回収	利用状況の確認	体の不自由な高齢者などを対象	10～12月	4

太陽光発電パネルと蓄電池交流センター１１館に設置

太陽の恵みをエネルギーに！

平成２４年度に、自主防災組織の活動拠点であり、災害時の避難所でもある交流センター１１館（十王、田尻、滑川、宮田、成沢、油縄子、河原子、塙山、大沼、金沢、大みか）に、太陽光を利用した太陽光発電パネルと蓄電池が設置されました。

平常時の再生可能エネルギー活用での交流センター館内における省エネと、災害発生時の必要最小限の電源確保を目的にしたものです。交流センター１館での太陽光発電パネルは約８．０ｋＷ、蓄電池は約８．０ｋＷｈです。

太陽光発電と蓄電池を用いて再生可能エネルギーを活用するシステムを構築するとともに、多くの住民が利用する交流センターに設置することによって、再生可能エネルギー活用の啓発効果にも期待が寄せられています。

【平常時】太陽光発電設備で発電した電力を交流センターで消費することで、電力会社から買う電力量を削減しています。蓄電池への充電は深夜に行っています。この電気を夜間などに使うことにより使用電力の削減に役立てます。

【災害・停電時】大規模な停電の発生時などに、市民の避難誘導や災害対策本部との連絡機能を維持するために、日中は太陽光発電、日没後は蓄電池から電力供給を行い、最小限の事務室等の照明・通信・情報収集などの維持に役立てます。

「市報の配布方法のあり方」検討
市報と同時に配布する広報物の削減

昨年、課題解決に向けた現状を把握するため、市報梱包員と市報配布推進員に対するアンケート調査を実施しました。その調査結果を踏まえ（調査結果は「こみこみ」３１号で紹介）、取り組む課題として「市報と同時に配布する広報物の削減」に焦点を絞りました。

これまで、コミュニティ推進協議会と連携を図りながら、市民活動課と広聴広報課では、毎月検討会を開催してきました。更に、関係課所への調査や意見交換会を実施するなど、市報と同時に配布する広報物に対する考え方の見直しや、削減につながる具体的な方法の検討を重ねています。

沿線学区へ説明会
「ひたちBRT」常陸多賀駅まで北伸計画が進行中！

「ひたちＢＲＴ」（バス高速輸送システム）は、旧日立電鉄跡地を活用して、旧久慈浜駅から旧鮎川駅までの８．５kmを、バス専用道路として一般道路も併設して、日立港都市開発用地（おさかなセンター脇）から日立駅までの運行が計画されており、全線開通は平成３２年頃の予定です。

第１期区間の、おさかなセンターから大甕駅東口までが、平成２５年３月２５日に運行開始。通勤、通学、通院、買い物などに便利に利用されはじめ、４月２４日にオープンした南部図書館へも便利になりました。

久慈学区、大みか学区コミュニティを中心に、学校や商業関係者と行政で構成した「ひたちＢＲＴサポーターズクラブ」が、利用促進活動を行っています。当初の利用者予測は、１日４７０人程度を見込んでいましたが、開通後３ヶ月の利用者は徐々に増加しつつあり、１日５００人を超えています。利用者からは、早く大沼や河原子まで延ばして欲しいとの要望も出ています。

現在、第２期区間の大甕駅から東多賀駅ターミナル・常陸多賀駅までの区間が平成２８年度完成予定で進められています。

この計画には、大甕駅の東西自由通路（地下）と西口を含む駅舎整備、大甕駅西側の南北アクセス道路、県道日立港線と大みか北通りおよび旧水木駅までの道路が、ＢＲＴ専用道路とともに新設されます。また、東多賀ターミナル（湯楽の里入口付近）から常陸多賀駅東口までのアクセス道路も整備されます。

この計画について、大みか学区、水木学区、大沼学区、河原子学区で１回目の説明会が、開催されました。計画の進展に伴い、今後も説明会開催が予定されており、停留所の位置や数など具体的な検討は、地域住民の意見を反映して計画が進められ、地域住民と行政をつなぐ各学区コミュニティの役割が重要になります。

通学にとても便利になりました

担当課の公共交通政策課では、「住民の望む交通機関にしたい。地域住民が関心を持って意見を出して欲しい。そして、完成後にはみんなで利用してほしい」と要望しています。

「ひたちＢＲＴサポーターズクラブ」の活動も、さらに範囲を拡げて取組むことになります。「ひたちＢＲＴ」を活用した南部地区のまちづくりが期待されています。

避難所６４施設に
防災備蓄倉庫と備蓄品の整備

東日本大震災の教訓として、大規模災害発生時には、避難所の開設や運営の応急防災活動が重要であることが認識されました。

その対策として、日立市は平成２３年度から２４年度にかけて、各避難所への防災備蓄倉庫や備蓄品の整備を進めてきました。対象施設と整備状況は下記の通りです。

２３小学校、１４中学校、６高等学校、１８交流センター、その他３施設の合計６４施設の避難所に整備が完了しました。施設により、避難者数を５０人から３００人と想定しています。

また、避難所の開設や運営方法については、各学区コミュニティに配備されているコミュニティ版「防災ハンドブック」を参考にしながら、

避難所に防災備蓄倉庫を設置

自主防災訓練等で備蓄品を活用して訓練を行い、いざという時に備えていきたいと思います。

設置された学校や交流センター等

【小学校】
助川、宮田、滑川、仲町、中小路、大久保、河原子、成沢、諏訪、大みか、大沼、金沢、塙山、田尻、日高、豊浦、坂本、東小沢、櫛形、会瀬、水木、油縄子、山部

【中学校】
駒王、多賀、助川、泉丘、豊浦、中里、平沢、滑川、坂本、大久保、河原子、台原、日高、久慈

【高等学校】
日立第一、日立北、日立工業、日立商業、茨城キリスト教学園、日立工業専修学校

【交流センター】
十王、塙山、諏訪、金沢、河原子、仲町、助川、油縄子、田尻、大みか、宮田、中小路、成沢、大久保、水木、大沼、日高、滑川

【その他の施設】
鮎川体育館、十王体育館、産業支援センター

日立の魅力再発見ウォーク

今年も各学区の歴史や建造物、風景などを紹介する日立の魅力再発見ウォークを開催します。現在、魅力あるコースを計画中、詳細は９月２０日号の市報でお知らせする予定です。お住まいの学区以外の再発見ウォークにもぜひご参加ください。

日立市のコミュニティ情報紙
こみこみ
No.32

単会リレー訪問 特色ある活動を紹介（13）

日立市には概ね小学校区をエリアに、活動をしている２３のコミュニティ単会があります。それぞれの単会では防犯や防災、地域福祉、青少年育成、環境、生涯学習など、多くの住民と共に特色のあるまちづくりを続けています。今回は平成１８年に誕生した十王地区コミュニティ推進会の活動を紹介します。

初のコミュニティプラン策定 住民の理解進む

十王地区コミュニティ推進会

十王町と日立市の合併により、平成１８年に誕生した十王地区コミュニティ推進会、深津正孝会長を十王交流センターに訪ねました。

十王地区エリアは広く、海岸部、住宅団地、商業地区、農山間地区など多様で住民の生活形態も様々です。

２４年度、十王地区では１年をかけ、住民アンケートを基にコミュニティプランを策定しました。「自然・ひと・まちを生かす十王らしさの創造」のタイトルで、１０本の柱を立て、現在そして今後に進めていく活動を分野別に具体的に掲げました。

プランでは、十王地区らしく「地域の和で生きがいづくり」。各支部が特性を生かしながらまとまり、違いを乗り越え、十王地区全体としての祭り、運動会、清掃、防災訓練、募金活動などの事業に協力し合っていこうという姿勢が明確に打ち出されました。

合併前の十王地区には区長制度があり、区長が町に協力する形で地域活動をリードしてきましたが、現在はそれぞれの地区がコミュニティ組織の支部となり、かつての区長的な人が支部長となり支部をまとめています。十王地区の最も特徴的なものは支部の強いまとまりにあるようです。開催主体がコミュニティに移った町民運動会、十王まつり、防災訓練など地域住民の協力や連携で盛り上がる事業になっています。

支部の力で盛り上がる運動会！

完成したプランは各戸に配布されました。十王地区コミュニティ推進会が、何を目標にどのような活動をしようとしているのか、地域住民の理解がかなり進んだそうです。

深津会長は、「プランには基本的なことが多いのですが、地域の和を大切に、十王の文化や伝統を生かした活動を進めたい」と話されました。

諏訪のふるさと教室「鮎川と諏訪の水穴探検」

諏訪は、多賀の山並みを背に鮎川に沿って東南に開けている地で、縄文時代から近年まで静かな農村の集落でした。諏訪という地名の由来も定かではないのですが、信州の諏訪から、建長２年（１２５０年）に藤原高利が諏訪神社の分神を勧請して、この地に神社を建立したときに始まるのではないかと言われています。これにまつわる鮎川の上流に残る水穴伝説、鮎川の名の由来や諏訪梅林など、歴史や遺産が沢山あります。

このような環境で地域の子どもたちにふるさとの歴史や鮎川に生息する生物に触れ、ふるさとを思う心を養うと共に健康づくりのため『諏訪ふるさと教室（鮎川と諏訪の水穴探検）』を開いています。主催は諏訪学区コミュニティ推進会青少年育成部と諏訪地区文化財愛護班。今年３３回目となり、毎年、夏休みに入った最初の日曜日に実施しています。

歩くの大変“川の中”

午前８時に諏訪小校庭に集合、鮎川で見ることが出来る生物の説明を聞き、西田橋上流から諏訪梅林まで鮎川の中を歩き、大平田で水穴伝説の説明を受けて水穴の探検をします。水穴は県内では珍しい鍾乳洞で奥行きも分らず、見るからに神秘的な様子から別名「神仙洞」とも言われています。現在分かっているのは入り口から一の戸までは約８０ｍ、そこから二の戸までは約２０ｍですが、その先は不明です。

今年度は「７５０年前にタイムスリップ！鍾乳洞を探検しよう！」で参加者募集。スタッフは安全確保のため危険箇所整備等も行っています。

久慈町文庫展

○と　き　８月２５日（日）まで
○ところ　南部図書館（TEL29-1125）
○写真・映像・音楽資料等
先人が残した文献・資料を収集展示。